

平成24年度 経営協議会学外委員からの意見等に対する本学の対応状況(平成25年3月現在)

開催日時	議題名等	学外委員等からの意見	本学の対応
24.4.26(63回)	薩摩川内市との次世代エネルギーに関する協定書(案)について	本県は離島を含め様々なエネルギー資源があると考えられるので、次世代エネルギーを含めたエネルギー関連分野への教育、研究など大学としての更なる取り組みを期待するとともにそれらの様々な活動を社会に積極的にアピールしていくことも必要である旨の発言があった。	<p>鹿児島県に関連する次世代エネルギーを含めたエネルギー関連分野の取組として、</p> <p>①人文社会科学部地域経営研究センター、出水市及び及びポンプメーカーによる産官学連携事業で進めている社会実験「マイクロ水力発電」による街灯とイルミネーションの点灯式を出水市本町ため池公園で実施(平成24年12月)</p> <p>②自治体や企業など111名が参加した産学官交流会「かごしまの次世代エネルギー研究と活用事例」において、本学で行われている次世代エネルギーに関する様々な分野における多彩な取組(バイオマス発電、風力発電、太陽光発電、小水力発電、潮流発電等)を紹介(平成25年1月)</p> <p>③本学、鹿児島県、産業技術総合研究所、関連企業の研究者で構成する「太陽電池モジュールの信頼性に対する火山灰・火山性ガスの影響調査研究会」を設立(平成24年10月、25年1月開催)</p> <p>等を行うとともに、薩摩川内市のほか、連携協定を締結している自治体(出水市、垂水市など)からのエネルギー活用に係る事業要請に応える取組を行っており、今後も地の拠点として取組を進めていきたい。</p> <p>また、本学の活動は、研究シーズ集などを通じて情報発信を行っているところであるが、更なる情報発信の取組についても行っていきたい。</p>
24.9.27(65回)	組織評価報告書について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価報告書公表は報告書の内容の精査に時間を要するよりもスピーディーに結果を公表しブラッシュアップを図ることが重要である。 ・ 組織評価書の自己評価結果は3段階となっているのに対し、国立大学法人鹿児島大学における部局等の自己評価の実施要項第3条に規定されている評価水準は4段階となっている。 ・ 組織評価書の自己評価結果のほとんどが、「良好である」か「おおむね良好である」との自己評価結果であるが、第2期中期目標・中期計画期間の6年間の途中の段階では、より厳しい評価とした方がよいのでは。 	<p>組織評価報告書は、各部局等の活動におけるPDCAサイクルの確立と活動状況の社会に対する説明責任を果たす目的で今年度(24年度)からはじめた取組である。</p> <p>各部局等からの報告書を踏まえ、大学全体の報告書も作成し公表することとしていたことから、内容の精査に時間を要していたが、来年度より毎年文部科学省に提出する業務実績報告書を活用することで、迅速な結果公表を行うよう要項の改正も含め見直しを行ったところである。</p> <p>また、自己評価の段階判定について、四半期毎の評価は年度計画の評価水準に合わせて4段階とし、組織評価報告書の評価は、社会に対して分かりやすくするために3段階で表すこととしているが、分かりづらいとの指摘も踏まえ、十分に説明を行うとともに、社会への説明責任の視点から更に工夫していきたい。</p> <p>組織評価報告書は、各部局等のPDCAサイクルの確立を主眼としており、この取組が全学の年度計画の達成にも繋がるものと位置づけている。今後は、年度計画を通じた、全学の中期目標・中期計画の達成に向け、部局等に対する指導助言を行っていきたい。</p>
	その他(広告について)	市電の車内で見かける鹿児島大学の中吊り広告について、紙面にあまりにも各種イベントを盛り込みすぎて分かりにくい感じを受けるので、もう少しすっきり分かりやすい紙面にしたい方がよいのではないかと意見が出された。	<p>市電広告は、1回あたり4～5件程度を掲載の目安としており、掲載の優先順位は以下のとおりである。</p> <p>①市民参加型の行事、</p> <p>②大学の動きをアピールするもの、</p> <p>③学会等</p> <p>また、7月、8月の夏休み期間中の特別イベントやイベントとの多い11月は2枚に分け、少しでも多く掲載できるように努力しているところであるが、今後、更に分かりやすい紙面となるよう工夫していきたい。</p>
24.11.22(66回)	国立大学法人鹿児島大学会計事務取扱規則の一部改正について	<p>大学インフォメーションセンターに関して、以下のような意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物品販売だけでなく大学のPRセンターとしての役割機能の充実を図ってほしい。 ・ 高校生、受験生が気軽に立ち寄れて、大学の学生の生の声を直接聞けたり、伝えられるような場(スペース)にすることが出来れば良いのでは。 	<p>本学の研究成果の発信を目的として、平成24年12月より、インフォメーションセンターで大学ブランド焼酎の販売を行っているが、2月からは高校生や受験生も気軽に立ち寄れるよう大学オリジナルグッズ(ペン、ペンケース等)の販売も開始した。</p> <p>大学インフォメーションセンターでは、グッズ等の販売だけではなく、大学紹介ビデオの放映や各種イベント等の案内も行うなど本学のPRセンターの役割も担っているが、高校生や受験生と本学の学生との交流の場としての活用等、更なる充実について、引き続き検討を行ってきたい。</p>